

令和7年度

「自ら学び続ける生徒」の 育成を目指して



.....

北海道岩見沢市立緑中学校

01 研究開発課題、研究の概要

《研究開発課題》

生徒の学びの質と学校生活の質の向上を図るため、以下について研究開発を行う。

- ・ 1 単位時間45分
- ・ 創意工夫ある教育課程の編成
- ・ 各教科等の指導の工夫
- ・ 適切な授業時数の在り方
- ・ 生み出した時間の活用の工夫 等

01

研究開発課題、研究の概要

《研究の概要》

全ての生徒の可能性を引き出す**個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実**を図るとともに、学校課題を解決するために、**1単位時間の弾力化や日課表の工夫**によって、**創意工夫のある教育課程の編成等**を図る。

01 研究開発課題、研究の概要

《研究の概要》

また、**生み出した時間の効果的な活用を追求すること**で、「令和の日本型学校教育」に求められている**生徒一人ひとりが自分の興味・関心や学習上の課題等に応じた柔軟な学びが展開できるようにする。**

01 研究開発課題、研究の概要

《生徒・教職員の思い》

◆社会の中で 信頼される 愛される 輝ける人へ
 ～仲間とともに 認め合い 支え合い 高め合いながら～

1. 目標に向かって
 何度も挑戦・努力
 できる

2. 自分の考えをよ
 り良く相手に伝え
 ることができる

3. 自ら考え、判断
 し、行動することが
 できる

4. 失敗と成功を経
 て、学びや自信に
 つなげることがで
 きる

5. 思いやりの心を
 持ち、互いに認め
 合える

《地域の思い》

- ◆人とのつながりをもてる子どもを育てる鉄北地区に
- ・子どもたちに何を残すことができるか
 - ・相手を尊重できる人、感謝の気持ちをもてる人に
 - ・地域の方と一緒に活動する機会を広めたい

01

研究開発課題、研究の概要

授業づくりを中核として、学びの質・
学校生活の質の向上を具現化していく

「やってみたい」と
いえる・考える生徒

緑中学校の強み

「やってみたい」に
応える保護者・地域

「子どもが主役」を
目指す教職員

01 研究開発課題、研究の概要

《本校が抱える課題》

◆学力の向上

◆支援が必要な生徒への学びの保障

◆授業づくりに関わる時間の確保

全ての生徒の可能性を引き出す授業を創る

全ての生徒が自分の興味・関心、学習上の課題等に応じて学ぶ授業を創る

02 目指す生徒像

自ら学び続ける生徒

重点的に育成を目指す資質・能力【学びに向かう力・人間性】

1. 目標に向かって
何度も挑戦・努力
できる

2. 自分の考えをよ
り良く相手に伝え
ることができる

3. 自ら考え、判断
し、行動することが
できる

4. 失敗と成功を経
て、学びや自信に
つなげることがで
きる

5. 思いやりの心
を持ち、互いに認め
合える



挑戦力

目標に向かって、何度でも挑戦・努力する生徒

課題対応力

自ら考え、判断し、行動する生徒

協働力

思いやりの心を持ち、互いに認め合う生徒

コミュニケーション力

自分の考えをより良く相手に伝えることのできる生徒

メタ認知力

失敗や成功を経て、学びや自信につなげることのできる生徒

03

研究の仮説



仮説 1 生徒が見通しをもって授業に臨む、効果的に動画や画像、ICT機器を活用すること等で、45分間での授業設計を行うことができるであろう。

仮説 2 「45分授業午前5時間制」とすることで生徒の学びの質や学校生活の質の向上を図ることができるであろう。

仮説 3 生み出した時間を教職員のための時間として活用することで、教職員の資質能力の向上の推進につながるであろう。

04 研究の内容

〔45分での授業づくり〕

(生徒の姿の共有)

- ・ 授業を通して、どのような生徒を育成するか



(授業の形、方策の共有)

- ・ どのような授業への転換が必要か
どのように授業を進めるか



(実践と評価・分析)

- ・ 見方・考え方を働かせていたか、
深く理解していたか など

〔創意工夫ある 生み出した時間の活用〕

(生徒の姿の共有)

- ・ 生み出した時間を通して、
どのような生徒を育成するか



(エデュタイムの形、方策の共有)

- ・ どのような活動が必要か
どのように活動を進めるか



(実践と評価・分析)

- ・ 生徒の「もっと〇〇したい、
深めたい」が見られたか

04

研究の内容

「研究開発学校」制度を活用した緑中学校の取組

重点的に育成を目指す資質・能力【学びに向かう力・人間性】

自ら学び続ける生徒

- ①**挑戦力**：目標に向かって、何度も挑戦・努力する ②**課題対応力**：自ら考え、判断し、行動する ③**協働力**：思いやりの心を持ち、互いに認め合う
 ④**コミュニケーション力**：自分の考えをよりよく相手に伝える ⑤**メタ認知力**：失敗や成功を経て、学びや自信につなげる

育成を目指して

研究開発

45分午前5時間制の特色を生かしたカリキュラム・マネジメント

全教職員の**共通理解**のもと、「45分での授業づくり」「**創意工夫ある生み出した時間の活用**」を研究開発の中核として、全教職員で「自分で学び続ける生徒（5つの資質・能力）」の育成に**挑戦**し、「**子ども主語**」の**検証**により、取組の不断の見直しを図る



05 研究の実際①

これまで本校の授業づくりで大切にしてきたこと

- ◆「基本的な授業の流れ」の共有
- ◆「授業をつくる前のチェック」の共有
- ◆「ピア・サポートの概念」の共有
- ◆「より良い授業の受け方」の共有

これまでの授業づくりの良さを生かしながら、
さらに授業改善を加速させていく

05 研究の実際①

45分での授業づくりをどう進めるか

- 生徒が「身に付けるべき資質・能力」「そのために必要な学習活動」を自覚し、教師と仲間と共有して学習を進める授業
- 生徒が教科の見方や考え方を働かせながら、知識を関連付けて深く理解をしたり、考えを形成したり、問題の解決を図ったりできる授業

05 研究の実際①

45分での授業づくりを
どう進めるか

- ◆ 単元や題材のデザイン
- ◆ 共通の学習過程
- ◆ ICTの活用
- ◆ 指導と評価の一体化
- ◆ 指導言の精選

協働学習を土台として、一人ひとりが学びに向かう授業づくり・学級づくりを進める

05 研究の実際①

45分での授業づくりを どう進めるか

◆単元や題材のデザイン

- ・単元や題材、1単位時間の中で「何を身に付けるのか」**生徒に見通し**を持たせた上で、**知識技能**を確実に習得する
- ・**見方や考え方を働かせる**ことで**思考力・判断力・表現力など**を高める
- ・**より短い時間**で生徒が**目標を達成する授業**を工夫する



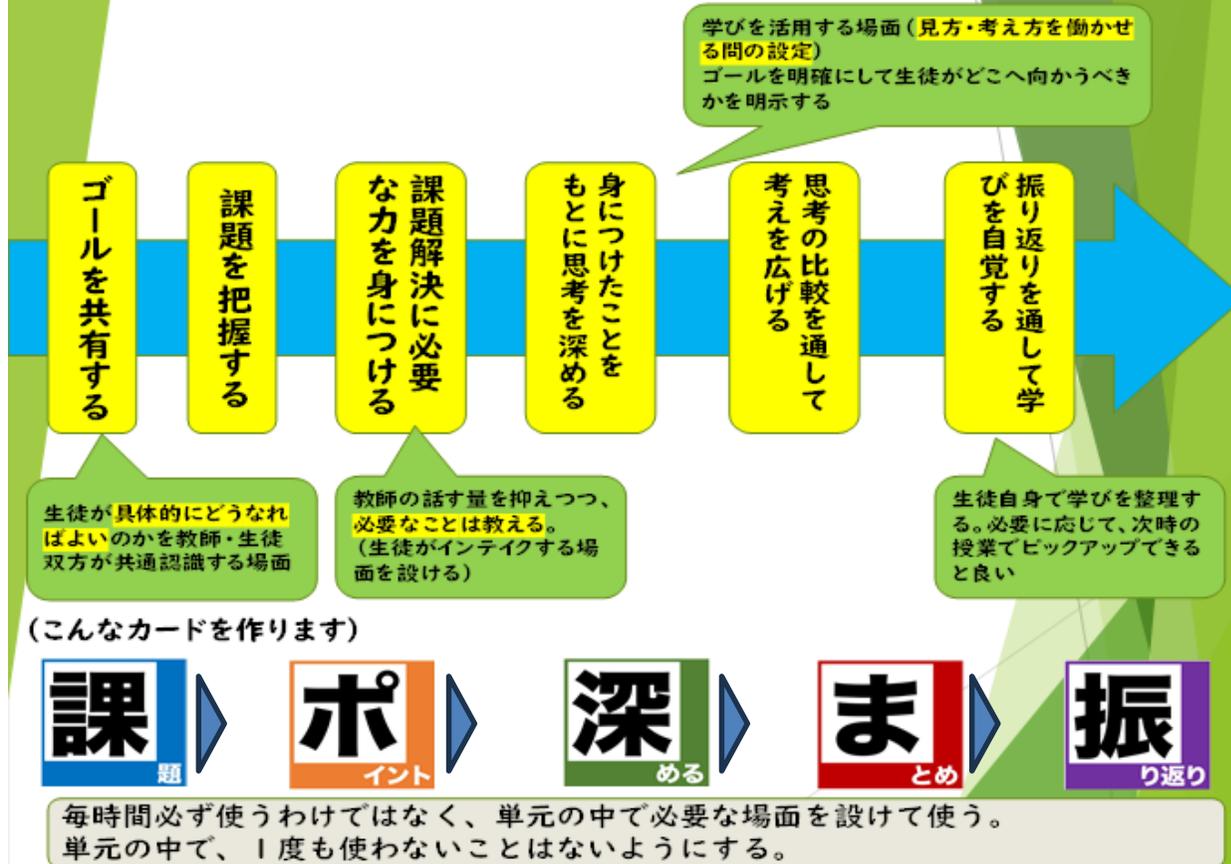
05 研究の実際①

45分での授業づくりを どう進めるか

◆共通の学習過程

各教科において、
「**基本的な授業の流れ**」に
したがって授業を行う

以下の流れを、1単位時間または単元を通して展開する



05 研究の実際①

45分での授業づくりを どう進めるか

◆ ICTの活用

時間を短縮しても、
学びの質は維持・向上させる



【紙ベース】

- ・教員が板書で本時の目標を提示
- ・指示を聞く時間、視写の時間が長い

【ICTの活用】

- ・デジタルホワイトボードや配信資料
- ・Google Classroomで目標を即共有
- ・自分の端末で確認、即活動

【紙ベース】

- ・一斉講義・黒板中心、進度一律
- ・視写に時間がかかる

【ICTの活用】

- ・端末で協働編集、AIドリル
- ・進度に応じた個別活動、協働活動

【紙ベース】

- ・教員の板書による
- ・共有に時間がかかる

【ICTの活用】

- ・フォームで個別の振り返り
- ・全体共有も即座に
- ・学びの可視化・共有、時間短縮

ICTの活用で個別最適な学びと協働的な学び
を充実させる

05 研究の実際①

45分での授業づくりを どう進めるか

◆指導と評価の一体化

- ・ **生徒の姿、生徒の実態**に基づいた**単元計画**
- ・ **目標**を達成させるための**手立て**の工夫
- ・ **生徒の変容**した姿に基づいた**評価**

《研修部が進める授業改善のサイクル》

エビデンスに基づいた「生徒の学習状況の把握」

「単元計画」「単元のゴール」「身に付ける力」の提示、共有

目標の達成に向けた「生徒の学習活動」

生徒の学習の「評価」「見取り」、その後の「指導改善」へ

05 研究の実際②

生み出した時間の
活用の工夫

- ◆日課の工夫
- ◆月 1 チルタイム
- ◆月火 エデュタイム
- ◆水 職員会議・職員研修
- ◆木 学年・学級活動、生徒会活動
- ◆金 エデュタイム

05 研究の実際②

時間を生み出すために

◆日課の工夫

- ・ 登校時刻を5分早める
- ・ 5分間の業間を2つ設定する
- ・ 清掃を10分間に縮める

◆令和7年度 緑中学校日課 ◆

<通常日課>

学校開錠	7:45						週休日 (土曜、日曜、祝日)
職員出勤	～ 8:05	月	火	水	木	金	割当て時間
職員朝会	8:05 ～ 8:15						①8:00 生徒解錠
生徒登校	～ 8:15						
(朝読書)	～ 8:15						④9:00
朝の短学活	8:15 ～ 8:25	① チルタイム					
1校時	8:25 ～ 9:10		⑦	⑬	⑱	⑳	②11:00
2校時	9:20 ～ 10:05	②	⑧	⑭	⑲	㉑	
3校時	10:10 ～ 10:55	③	⑨	⑮	㉒	㉓	
4校時	11:05 ～ 11:50	④	⑩	⑯	㉔	㉕	
5校時	11:55 ～ 12:40	⑤	⑪	⑰	㉖	㉗	
給食	12:40 ～ 13:10						⑤13:00
昼休み	13:10 ～ 13:30			清掃 帰りの短学活 13:35下校			
6校時	13:30 ～ 14:15	⑥	⑫		㉚	㉛	③14:00
エデュタイム	14:15 ～ 14:55	エデュタイムA (自学自習)	エデュタイムB (数学一斉)	14:15 ↓ 15:35 会議 研修	生徒会 評議専門委員会 学年・学級活動	エデュタイムC (振り返り)	
清掃	14:55 ～ 15:05						⑥16:00終了
帰りの短学活	15:05 ～ 15:20						
部活動	15:20 ～ 17:20						
完全下校	17:30			13:55	17:30		⑦17:30終了 生徒施錠
帰宅時刻	夏(4月～9月) 19:00、冬(10月～3月) 18:00			部活動なし 完全下校	◆冬の部活動の終了時刻は 17:15		

<テスト日課>

学校開錠	7:45
職員出勤	～ 8:05
職員朝会	8:05 ～ 8:15
生徒登校	～ 8:15
(朝読書)	～ 8:15
朝の短学活	8:15 ～ 8:25
1校時	8:25 ～ 9:15
2校時	9:25 ～ 10:15
3校時	10:25 ～ 11:15
4校時	11:25 ～ 12:15
給食	12:15 ～ 12:45
昼休み	12:45 ～ 13:05
5校時	13:05 ～ 13:55
清掃	13:55 ～ 14:05
帰りの短学活	14:05 ～ 14:20
部活動	14:20 ～ 16:20
完全下校	16:30

05 研究の実際②

生み出した時間の
活用の工夫

◆月1 チルタイム

- ・ 週の初めをゆったりとスタート
- ・ 仲間づくり、自己理解、他者理解
(総合、道徳、学級活動など)

◆月火 エデュタイム (生み出した時間)

- ・ 自分で課題を設定し学びを進める
- ・ 学び直しをして学力を高める
(14:15~14:55の40分間)

05 研究の実際②

生み出した時間の
活用の工夫

◆水 職員会議・職員研修（生み出した時間）

- ・ 会議、研修の時間の確保
- ・ 生徒の下校後の時間の確保
（13:35に生徒下校、
会議開始時刻を13:55に設定）

◆木 学年・学級活動、生徒会活動

- ・ 生徒による自治活動の時間の確保
- ・ 生徒の「やってみたい」を実現
（活動開始時刻を14:45に設定）

05 研究の実際②

生み出した時間の
活用の工夫



◆金

エデュタイム（生み出した時間）

- ・ 週の終わりをじっくりと過ごす時間
- ・ 計画を立てる力やメタ認知力を高める
- ・ 週の振り返りと翌週の計画

自分で活動する時間、生徒の学びの時間、
自分で問いをもち学んで行く時間としていく

06

研究の組織

「研究開発学校」制度を活用した緑中学校の取組

重点的に育成を目指す資質・能力【学びに向かう力・人間性】

自ら学び続ける生徒

- ①**挑戦力**：目標に向かって、何度も挑戦・努力する ②**課題対応力**：自ら考え、判断し、行動する ③**協働力**：思いやりの心を持ち、互いに認め合う
④**コミュニケーション力**：自分の考えをよりよく相手に伝える ⑤**メタ認知力**：失敗や成功を経て、学びや自信につなげる

育成を目指して

研究開発

45分午前5時間制の特色を生かしたカリキュラム・マネジメント

全教職員の**共通理解**のもと、「45分での授業づくり」「**創意工夫ある生み出した時間の活用**」を研究開発の中核として、全教職員で「自分で学び続ける生徒（5つの資質・能力）」の育成に**挑戦**し、「**子ども主語**」の**検証**により、取組の不断の見直しを図る

共通理解

指定事業部

- ・目標（生徒像、資質・能力）
- ・目標に向けた研究の活用
- ・研究を推進する組織体制（分掌・学年の役割明確化）
- ・成果指標
- ・スケジュール

授業改革

研修部・ICT委員会

- ・45分授業の単元デザイン
- ・学習を紙からクラウドに移行（意見交流・他者参照・同時編集）
- ・クラウドで資料配信・テスト

創意工夫ある
生み出した時間の活用

教務部・数学科・指導部・研修部

- ・月 Edu：主体性育成の自学
- ・火 Edu：数学の知識・技能
- ・木 ：生徒の自治の涵養
- ・金 Edu：省察によるメタ認知
- ・チル：発達支持的風土の醸成

検証

企画調整委員会
(学校評価部会)

- ・生徒の主観的な受け止め
- ・生徒の学力・学習状況
- ・教職員の意識調査
- ・学校の三者評価

(授業改革・改善部会)

(教育課程部会)

(資料統計・調査部会)

トライ&エラー

全教職員

一人一人できることから

みんなが挑戦

チームで成長

07

分析・評価・改善

エリア	取組	担当	令和7年度目標	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
共通理解	目標の設定・共有 目標に向けた活用 PDCAによる検証	指定 事業部	・有成生徒目標の 明確化 ・制度活用の具体化		中間アンケート 【意識調査1】	運営指導委員会 7月14日(月)		中間アンケート 【意識調査2】	運営指導委員会 10月29日(水) (予定)	三者アンケート 【年度末評価】	年度末反省会議	新年度計画 事業報告会 運営指導委員会 1月28日(水)		令和8年度 推進計画の確定
	組織体制の明確化 PDCAによる検証	指定 事業部	・組織体制の 明確化・具体化		中間アンケート 【意識調査1】	運営指導委員会 7月14日(月)		中間アンケート 【意識調査2】	運営指導委員会 10月29日(水) (予定)	三者アンケート 【年度末評価】	年度末反省会議	新年度計画 事業報告会 運営指導委員会 1月28日(水)		令和8年度 推進計画の確定
	成果指標の提示 PDCAによる検証	指定 事業部	・短期スパンでの 課題の修正		中間アンケート 【意識調査1】	運営指導委員会 7月14日(月)		中間アンケート 【意識調査2】	運営指導委員会 10月29日(水) (予定)	三者アンケート 【年度末評価】	年度末反省会議	新年度計画 事業報告会 運営指導委員会 1月28日(水)		令和8年度 推進計画の確定
授業改革	研修部の年間計画	研修部	・有成生徒目標の 明確化 ・目標の明確化 ・取組の具体化	全国学力学習状況 調査 自校分析	NRT分析	運営指導委員会 7月14日(月)	生徒指導交流 (Q・Uの利活用) ブレ授業研 8月27日(水)		運営指導委員会 10月29日(水) (予定)	公開研究会 11月7日(金)	年度末反省会議 校内研修反省	新年度計画 事業報告会 運営指導委員会 1月28日(水)	次年度の 研究内容提案	令和8年度 推進計画の確定
	研究開発とリンク した授業改善 (45分対応)	研修部	・全職員で取組む アプローチの確立		中間アンケート 【意識調査1】	運営指導委員会 7月14日(月)		中間アンケート 【意識調査2】	運営指導委員会 10月29日(水) (予定)	三者アンケート 【年度末評価】	年度末反省会議	新年度計画 事業報告会 運営指導委員会 1月28日(水)		令和8年度 推進計画の確定
	授業のクラウド化 AIドリル活用	ICT委員会 指定事業部	・低ベースから クラウドベースへ ・AIドリルの活用		中間アンケート 【意識調査1】			中間アンケート 【意識調査2】		三者アンケート 【年度末評価】	年度末反省会議	新年度計画 事業報告会 運営指導委員会 1月28日(水)		令和8年度 推進計画の確定
	視察計画 他校との協力	指定事業部				運営指導委員会 7月14日(月)			運営指導委員会 10月29日(水) (予定)		年度末反省会議	新年度計画 事業報告会 運営指導委員会 1月28日(水)		令和8年度 推進計画の確定
生み出した時間	チルタイム運営 PDCAによる検証	指導部 研修部	・有成生徒目標の 明確化 ・共通理解の確立		中間アンケート 【意識調査1】	運営指導委員会 7月14日(月)		中間アンケート 【意識調査2】	運営指導委員会 10月29日(水) (予定)	三者アンケート 【年度末評価】	年度末反省会議	新年度計画 事業報告会 運営指導委員会 1月28日(水)		令和8年度 推進計画の確定
	エデュタイム運営 PDCAによる検証	教務部 数学科	・有成生徒目標の 明確化 ・共通理解の確立		中間アンケート 【意識調査1】	運営指導委員会 7月14日(月)		中間アンケート 【意識調査2】	運営指導委員会 10月29日(水) (予定)	三者アンケート 【年度末評価】	年度末反省会議	新年度計画 事業報告会 運営指導委員会 1月28日(水)		令和8年度 推進計画の確定
	主体性を発揮する 学級・生徒会活動	活動部			中間アンケート 【意識調査1】	運営指導委員会 7月14日(月)		中間アンケート 【意識調査2】	運営指導委員会 10月29日(水) (予定)	三者アンケート 【年度末評価】	年度末反省会議	新年度計画 事業報告会 運営指導委員会 1月28日(水)		令和8年度 推進計画の確定
検証	生徒の主観的な 受け止め	指定 事業部			中間アンケート 【意識調査1】			中間アンケート 【意識調査2】		三者アンケート 【年度末評価】	年度末反省会議	新年度計画 事業報告会 運営指導委員会 1月28日(水)		令和8年度 推進計画の確定
	生徒の学力 学習状況の把握	指定事業部 研修部 教務部			中間アンケート 【意識調査1】	運営指導委員会 7月14日(月)		中間アンケート 【意識調査2】	運営指導委員会 10月29日(水) (予定)	三者アンケート 【年度末評価】	年度末反省会議	新年度計画 事業報告会 運営指導委員会 1月28日(水)		令和8年度 推進計画の確定
	教職員の意識 改善要望と修正	指定 事業部			中間アンケート 【意識調査1】	運営指導委員会 7月14日(月)		中間アンケート 【意識調査2】	運営指導委員会 10月29日(水) (予定)	三者アンケート 【年度末評価】	年度末反省会議	新年度計画 事業報告会 運営指導委員会 1月28日(水)		令和8年度 推進計画の確定
	学校の三者評価	学校評価 部会 指定事業部								三者アンケート 【年度末評価】	年度末反省会議	新年度計画会議	アンケート結果 の開示	
	必要に応じた 日課の見直し	企画調整 委員会 学校長			中間アンケート 【意識調査1】	運営指導委員会 7月14日(月)		中間アンケート 【意識調査2】		三者アンケート 【年度末評価】	年度末反省会議	新年度計画 事業報告会 運営指導委員会 1月28日(水)		令和8年度 推進計画の確定

07

分析・評価・
改善

4月から今日までを振り返って

- ◆ 「45分での授業」「生み出した時間の運用」を**目的にさせない**
- ◆ 生徒の「**なぜ?**」「**問い**」のある授業づくりを**組織的に進めていく**
- ◆ 数値、エビデンスに基づいた**計画、実践、評価、分析**を進めていく
- ◆ **生徒の声、先生の声**を聴きながら、**研究**を推進していく

さいごに

協働学習を土台として、
一人ひとりが学びに向かう
授業づくり・学級づくり

自分で活動する時間、
生徒の学びの時間、
自分で問いをもち
学んで行く時間

全職員がチームとなって
学びの質の向上、学校生活の質の向上を

トライ & エラー

一人一人できることから
みんなが挑戦
チームで成長